

201028050B

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

平成20年度～22年度

総合研究報告書

研究代表者 桐生 康生

平成23(2011)年 3月

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

平成20年度～22年度

○研究組織

研究代表者

- 北島智子 国立感染症研究所 企画調整主幹
(2008年4月から2008年8月まで)
- 藤井紀男 国立感染症研究所 企画調整主幹
(2008年8月から2010年7月まで)
- 桐生康生 国立感染症研究所 企画調整主幹
(2010年8月から2011年3月まで)

研究分担者

- 影山 努 国立感染症研究所
インフルエンザウイルス研究センター 室長
- 倉田 毅 富山県衛生研究所 所長
- 谷 伸悦 国立感染症研究所 国際協力室 室長
- 中嶋健介 国立感染症研究所 国際協力室 室長
- 東 敏昭 産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学 教授

研究協力者 (PO)

- 内山武彦 常磐大学人間学部健康栄養学教授
- 神田忠仁 (独)理化学研究所
新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー
- 森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長
- 脇田隆字 国立感染症研究所ウイルス第2部 部長

研究分担者、研究協力者は五十音順
所属・役職は研究参加当時のもの

目 次

I. 総合研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究…………… 1

国立感染症研究所 企画調整主幹 桐生 康生

【資料】

- 1 平成20年度新規採択課題（1年目研究課題）
- 2 平成20年度継続課題（2年目研究課題）
- 3 平成20年度終了課題（3年目研究課題）
- 4 平成21年度新規採択課題（1年目研究課題）
- 5 平成21年度継続課題（2年目研究課題）
- 6 平成21年度終了課題（3年目研究課題）
- 7 平成22年度新規採択課題（1年目研究課題）
- 8 平成22年度継続課題（2年目研究課題）
- 9 平成22年度終了課題（3年目研究課題）
- 10 平成21年度課題採択方針
- 11 平成22年度課題採択方針
- 12 平成23年度課題採択方針
- 13 評価支援システム評価者編操作マニュアル

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)

平成20～22年度

総合研究報告書

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

研究代表者 桐生 康生 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行うとともに、今後、当該研究事業の一層の推進に資する評価者、研究者等への支援方法に

A. 研究目的

平成21年4月に発生した新型インフルエンザ(パンデミック(H1N1)2009)への対応を例にあげるまでもなく、新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要で、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を中心として行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しているが、当該事業を適

切かつ効果的に実施することは対応を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成22年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)~3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
 - 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
 - 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究成果発表会の実施
2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集
国内外の会議への参加、文献収集等により、新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有
 3. 研究の企画・評価等の支援方法の検討
1. 2. の実施を通して、今後の研究の企画・評価、研究実施に対する効率的・効果的な支援方法についての検討、具体的手法の開発と試行。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いること

はなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

(1) 実施公募課題

1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成20年度から平成22年度の新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び3名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した。

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要」として冊子を作成し、研究及び対策の実施に当たっての参考資料として新興・再興感染症研究にかかわる評価者、研究者及び厚生労働省等の関係者に配布するとともに、セキュリティに配慮した上で、後述の研究発表会の状況と併せてweb上での閲覧を試行した。

3) 研究発表会の実施

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともにweb上で関係者における共有を試行した。

(2) 新規申請課題

(事前評価)

平成22年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員に対して行った評価方法に関する意見聴取等を踏まえて今年度から実施することとしたものである。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第57回日本ウイルス学会学術集会等への参加、新興・再興感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った。

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における公募研究課題の立案・公募要項の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

3. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

(1) 評価委員からの意見聴取

平成21年9月に評価委員に対し、評価等の方法、具体的には、

- 1) 成果発表会の実施方法(対象、時間、公開の是非等)
- 2) プログラムオフィサーによる研究班会議レポートの共有方法
- 3) 成果概要の内容

等に関してアンケート等により意見聴取を行った。その結果、研究成果の共有方法、書面評価等の評価方法の効率化、円滑化について改善すべきと考えられる意見があった。

これらの意見を踏まえ、研究成果の共有に関しては、評価委員等のみでなく新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている全研究課題の研究代表者に通知の上、研究代表者、研究分担者に研究発表会の開催を案内した。

また、時間的・距離的な制約のため参加できなかった評価委員、研究者、行政関係者等と成果発表会での内容を含む研究成果を共有する方法として、webを活用して成果発表会の資料や音声を共有できる手法の検討とシステムの開発を行った。

また、現在、書面等により行っている評価方法については、新規申請課題の評価において一部の申請者に対するヒアリングが試行的に実施された。

成果発表会で用いたプレゼンテーションファイルの書式に関してレビューを行った。

(2) 研究評価方法に関する情報収集

平成21年12月25日に改訂された「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」においては、見直しのポイントとして

【研究開発評価の方針について】

○研究成果を着実に行政施策へ反映

すべき

○研究開発成果及び評価結果を国民に対して分かりやすく公表し、説明責任を果たすことで、優れた研究開発の成果を国民、社会に還元すべき

【研究開発の評価の視点について】

○政策目標との整合性を重視

○国際的な水準の向上の観点等から有効に実施されているか等についても評価する

等が挙げられている。今後、行政施策に関する評価委員との認識共有、成果、評価結果の公表を前提とした評価のあり方等についての検討を行い、より適切で円滑な評価等の支援を考慮する必要があると考える。

また、当該指針は平成20年10月31日に改定された「国の研究開発に関する大綱的指針」を踏まえて改訂されたものであるが、改訂に先立ち日本学術会議に設置された研究評価の在り方検討会より平成20年2月26日に出された対外報告「我が国における研究評価の現状とその在り方について」を入手するとともに、文部科学省、経済産業省(所管の研究機関を含む)における研究評価の考え方についても情報収集を行った。さらに、「プログラムオフィサーセミナー(主催:科学技術振興機構、開催日:平成21年9月16日、開催場所:東京国際フォーラム)」や、「研究開発シンポジウム(主催:文部科学省、開催日:平成21

年11月9日、開催場所:富士ソフト
アキバホール)に参加することにより、
ハイリスク研究に対するファンディン
グプログラムの設計とマネジメント、研
究開発評価システム改革の実施と具
体的な展開等についての情報収集を
行い、今後の評価方法の検討材料と
した。

また、質の高い疫学研究を実施す
るために必要な研究計画(プロトコ
ール)を適切に作成するため、疫学的方
法論に基づく研究分類(研究デザイ
ン)について概括した。

新型インフルエンザ等新興・再興感
染症研究事業においては、非常に多
岐にわたる感染症に対して、基礎分
野、臨床分野、社会科学的分野等の
幅広い研究分野について課題毎ある
いは1つの課題において複数の分野
を包含した研究が行われているが、
その評価にあたっては、これらに関し
て過去に実施されてきた研究との関
係や成果等について総合的に勘案す
る観点が必要である。

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感
染症研究事業の対象となる感染症は、新
型インフルエンザを代表とする発生前か
ら事前対応を求められている感染症、ウ
イルス性出血熱やSARSのように重篤
な輸入感染症として認知されている新興
感染症、麻疹や結核、インフルエンザの
ように社会的な問題として認知されてい
る感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳

等しばしば報道もなされて認知が高まっ
ている感染症、さらには一般国民にはあ
まり注目されていないと考えられる感
染症等、非常に多岐にわたっている。また、
一般的に注目されている感染症に対す
る研究の推進とその成果の対応への還
元が重要であることは言うまでもないが、
あまり注目されていないと考えられる感
染症であっても、常に基盤的な研究が
継続されなければ問題が発生した際の
対応が困難であることは明白であり、単
に注目の高低のみで研究の意義や重
要性を判断することは難しい。

今後の感染症対策のさらなる充実
に向け、新たなワクチンの開発・活用
や今回の新型インフルエンザ対応の
経験等を背景とした予防接種施策の
見直し・改善、国際的な感染症対応に
関する連携の強化、新型インフルエ
ンザ以外の新興・再興感染症対応への重
要性についての認識が高まっており、
これらの研究の一層の推進への期待
はさらに大きくなっていると考えら
れる。

限られた予算と当該研究分野におけ
る研究者のマンパワーを最大限に活用
し、これらの期待に応える効率的・効果
的な研究を推進するためには、新型イン
フルエンザ等新興・再興感染症研究事
業の企画・評価において、これまで実施
されている研究の内容や成果を適切に
把握するとともに、研究を取り巻く行政
的なニーズ、国際的な研究の状況に基
づく企画・評価等を行って効率的に研究

を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価するためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、ピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

このため、本研究において、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業における研究課題の適切な企画・評価を支援することを目的に、研究内容及び研究を取り巻く関連情報を研究者、評価者、ピアレビューを担当する者(本研究においては、プログラムオフィサー)等と円滑に共有する方法は重要と考えられる。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施される研究課題の企画・評価及び研究の実施の支援を行うとともに、その実施を通して、さらに適切かつ円滑な支援方法等の改善について検討と具体的な方策の提案等により、新興・再興感染症対策の推進に資する研究の効果的・効率的な実施に貢献したと考えられる。

平成20年度新規採択課題(1年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
1	工藤 宏一郎	国立国際医療センター 国際疾病センター	国際疾病センター長	我が国における一類感染症の患者発生時の臨床的対応に関する研究
2	廣田 良夫	公立大学法人大阪市立大学 大学院医学研究科公衆衛生学	教授	インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究
3	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究
4	山口 一成	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	部長	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策
5	田代 真人	国立感染症研究所 ウイルス第三部	部長	新型インフルエンザの発生予測、早期検知、リスク評価および大流行に対する事前準備と緊急対応に関する研究
6	佐多 徹太郎	国立感染症研究所 感染病理部	感染病理部長	テロの可能性のある病原体等の早期検知、迅速診断の開発とその評価法の確立に関わる研究
7	押谷 仁	東北大学 大学院医学系研究科微生物学分野	教授	新型インフルエンザ大流行時の公衆衛生対策に関する研究
8	原口 義座	国立病院機構災害医療センター 外科・臨床研究部	外科医長 病態蘇生研究室長	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究
9	杉山 和良	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	バイオセーフティ管理室長	バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究
10	小林 和夫	国立感染症研究所免疫部	部長	持続性結核菌感染の病原性や発症に関わる分子機構の解明及び治療・予防の基礎研究
11	石川 信克	(財)結核予防会結核研究所	所長	罹患構造の変化に対応した結核対策の構築に関する研究
12	宮崎 義継	国立感染症研究所生物活性物質部	部長	COPD等における難治性感染症の病態把握等に関する研究
13	渡邊 治雄	国立感染症研究所細菌第一部	副所長(細菌第一部長兼)	アジアの研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークの強化に関する研究
14	岡田 全司	独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター	臨床研究センター長	輸入感染症としての多剤耐性結核の対策・制御に関する研究
15	倉根 一郎	国立感染症研究所ウイルス第一部	部長	地球温暖化に伴い変化する感染症に対する早期防御法確率に関する研究
16	野崎 智義	国立感染症研究所寄生動物部	部長	顧みられない病気に関する研究
17	菅又 昌実	NPOバイオメディカルサイエンス研究会国際協力部門、情報収集・広報部門(公立大学法人首都大学東京 大学院人間健康科学研究科)	理事(教授)	感染症情報国民コールセンター設置と実施に関する研究
18	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究
19	角田 慎一	独立行政法人医薬基盤研究所 基盤的研究部	サブプロジェクト リーダー	有効かつ安全なインフルエンザ粘膜ワクチンの確立を目指した新規アジュバントシステムの開発

平成20年度継続課題(2年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
1	切替 照雄	国立国際医療センター 研究所感染症制御研究部	部長	医療機関における感染症伝播に関する研究
2	砂川 慶介	北里大学大学院感染制御科学府 &北里大学北里生命科学研究所 感染症学研究室	教授	新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と、診断・治療法に関する研究
3	森川 茂	国立感染症研究所ウイルス第一部	第一室室長	防疫上緊急を要するウイルス性出血熱等に対する病原体診断法の確立及び予防・治療法の開発に関する研究
4	丸井 英二	順天堂大学医学部公衆衛生学教室	教授	感染症への国民啓発に効果的なリスクコミュニケーション方法と教育方法に関する研究
5	河内 正治	国立国際医療センター手術部	部長	インフルエンザ(H5N1)の死因となる劇症型ARDSの病態解析と治療法の開発に関する研究
6	牧野 正彦	国立感染症研究所病原微生物部	部長	抗酸菌感染症の発症・診断・治療・新世代予防技術に係わる分子機構に関する研究
7	宮平 靖	防衛医科大学校国際感染症学講座	教授	慢性寄生虫感染症の侵入監視及びその健康管理体制の確立
8	新見 昌一	国立感染症研究所生物活性物質部	室長	深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査法と抗真菌の開発、並びに病原因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究
9	山田 章雄	国立感染症研究所獣医科学部	部長	動物由来感染症の生態学的アプローチによるリスク評価等に関する研究
10	夢田有希	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	我が国における動物由来感染症の感染実態把握に資する研究
11	嘉糠洋陸	国立大学法人帯広畜産大学 原虫病研究センター	教授	等温遺伝子増幅法による感染症媒介蚊・迅速簡便病原体検出法の開発
12	苺和 宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	国内で発生のないベクター媒介性感染症の疫学診断法等の研究
13	清水 博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長(厚生労働技官)	ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討
14	武田 直和	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	中空粒子を用いたウイルス性肝炎の新しい検査・予防法の開発

平成20年度終了課題(3年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
1	小野寺 昭一	東京慈恵会医科大学医学部	教授	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究
2	篠原 克明	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	主任研究官	病原体保管、輸送、廃棄における一括管理システムの開発
3	岡部 信彦	国立感染症研究所 感染症情報センター	センター長	予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究
4	加藤 達夫	国際成育医療センター	総長	麻疹・風疹(MR)混合ワクチンの接種効果・安全性・接種率に関する研究
5	森島 恒雄	岡山大学大学院医歯学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症の発症因子の解明とそれに基づく発症前診断方法の確立に関する研究
6	酒井 健夫	日本大学生物資源科学部 獣医衛生学研究室	学部長・教授	野生動物由来狂犬病およびリッサウイルス感染症の汚染把握を目的とした国際疫学調査
7	吉川 泰弘	国立大学法人東京大学大学院 農学生命科学研究科	教授	動物由来感染症のコントロール法の確立に関する研究
8	小林 睦夫	国立感染症研究所昆虫医科学部	部長	節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究
9	向井 徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 病原微生物部	室長	ハンセン病の啓発と難治症例に対する予防・診断・治療に関する研究
10	荒川 宜親	国立感染症研究所細菌第二部	部長	薬剤耐性菌等に関する研究
11	加藤 誠也	(財)結核予防会結核研究所	副所長	結核菌に関する研究
12	森 康子	神戸大学大学院医学研究科	教授	臓器移植や悪性腫瘍による免疫低下状態で発生するウイルス感染症の予防と治療に関する研究
13	岸本 壽男	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立による早期警鐘システムの構築
14	谷口 清洲	国立感染症研究所 感染症情報センター	第一室長	効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究
15	寺嶋 淳	国立感染症研究所細菌第一部	第一室長	広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究

平成21年度新規採択課題(1年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
1-1	小野寺昭一	東京慈恵会医科大学医学部	教授	性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究
1-2	岡部信彦	国立感染症研究所感染症情報センター	センター長	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究
1-3	寺嶋淳	国立感染症研究所細菌第一部	室長	食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究
1-4	吉川泰弘	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	動物由来感染症のリスク分析手法に基づくリスク管理のあり方に関する研究
1-5	小林睦生	国立感染症研究所昆虫医学部	部長	節足動物が媒介する感染症への効果的な対策に関する総合的な研究
1-6	岸本壽男	岡山県環境保健センター	所長	リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症の総合的対策に関する研究
1-7	向井徹	国立感染症研究所ハンセン病研究センター感染制御部	室長	ハンセン病の再発・再燃、難治症例に対する予防・診断・治療とハンセン病の啓発に関する研究
1-8	荒川宜親	国立感染症研究所細菌第二部	部長	新型薬剤耐性菌等に関する研究
1-9	西條政幸	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌やウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究
1-10	森島恒雄	国立大学法人岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法、予防法の確立に関する研究
1-11	加藤達夫	国立成育医療センター	総長	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究
1-12	谷口清州	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	国際的な感染症情報の収集、分析、提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究
1-13	篠原克明	国立感染症研究所バイオセーフティ管理室	主任研究官	病原体等の登録・保管・輸送・廃棄に関する一括管理システムの開発と検証
1-14	加藤誠也	(財)結核予防会結核研究所	副所長	結核対策の評価と新たな診断・治療技術の開発・実用化に関する研究
1-15	大屋賢司	国立大学法人岐阜大学応用生物科学部	准助教	動物由来クラミジアの自然界における存在様式の解明ー比較ゲノム解析及び種特異的診断法の開発と実態調査

平成21年度継続採択課題(2年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
2-1	工藤宏一郎	国立国際医療センター 国際疾病センター	センター長	我が国における一類感染症の患者発生時の臨床的対応に関する研究
2-2	廣田良夫	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学	教授	インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究
2-3	高崎智彦	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究
2-4	山口一成	国立感染症研究所血液・安全性研究部	客員研究員	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策
2-5	田代真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	新型インフルエンザの発生予測、早期検知、リスク評価および大流行に対する事前準備と緊急対応に関する研究
2-6	佐多徹太郎	国立感染症研究所感染病理部	部長	テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究
2-7	押谷仁	東北大学大学院医学系研究科	教授	新型インフルエンザ大流行時の公衆衛生対策に関する研究
2-8	原口義座	国立病院機構災害医療センター 外科・臨床研究部	外科医長・病態蘇生研究室長	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究
2-9	杉山和良	国立感染症研究所バイオセーフティ管理室	室長	バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究
2-10	小林和夫	国立感染症研究所免疫部	部長	持続性結核菌感染の病原性や発症に関わる分子機構の解明及び治療・予防の基礎研究
2-11	石川信克	(財)結核予防会結核研究所	所長	罹患構造の変化に対応した結核対策の構築に関する研究
2-12	宮崎義継	国立感染症研究所生物活性物質部	部長	COPD等における難治性感染症の病態把握等に関する研究
2-13	渡邊治雄	国立感染症研究所細菌第一部	副所長(細菌第一部長)	アジアの研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークの強化に関する研究
2-14	岡田全司	独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	センター長	輸入感染症としての多剤耐性結核の対策・制御に関する研究
2-15	倉根一郎	国立感染症研究所ウイルス第一部	部長	地球温暖化に伴い変化する感染症に対する早期防御法確立に関する研究
2-16	野崎智義	国立感染症研究所寄生動物部	部長	顧みられない病気に関する研究
2-17	菅又昌実	NPOバイオメディカルサイエンス研究会 国際協力部門、情報部門(首都大学東京大学院人間健康科学研究科)	理事(教授)	感染症情報国民コールセンター設置と実施に関する研究
2-18	多屋馨子	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究
2-19	角田慎一	独立行政法人医薬基盤研究所基盤的研究部	サブプロジェクトリーダー	有効かつ安全なインフルエンザ粘膜ワクチンの確立を目指した新規アジュバントシステムの開発

平成21年度終了課題(3年目研究課題)

No	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
3-1	切替照雄	国立国際医療センター 研究所 感染症制御研究部	部長	医療機関における感染症伝播に関する研究
3-2	砂川慶介	北里大学大学院感染制御科学府・北里大学北里生命科学研究所 感染症学研究室	教授	新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と診断・治療法に関する研究
3-3	森川茂	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	防疫上緊急を要するウイルス性出血熱等に対する病原体診断法の確立及び予防・治療法の開発に関する研究
3-4	丸井英二	順天堂大学医学部公衆衛生学教室	教授	感染症への国民啓発に効果的なリスクコミュニケーション方法と教育方法に関する研究
3-5	河内正治	国立国際医療センター手術部	部長	インフルエンザ(H5N1)の死因となる劇症型ARDSの病態解析と治療法の開発に関する研究
3-6	牧野正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	抗酸菌感染症の発症・診断・治療・新世代予防技術に係わる分子機構に関する研究
3-7	宮平靖	防衛医科大学校国際感染症学講座	教授	慢性寄生虫感染症の侵入監視及びその健康管理体制の確立
3-8	大野秀明	国立感染症研究所生物活性物質部	室長	深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査法と抗真菌薬の開発、並びに病原因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究
3-9	山田章雄	国立感染症研究所獣医学部	部長	動物由来感染症の生態学的アプローチによるリスク評価等に関する研究
3-10	夢田有希	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	我が国における動物由来感染症の感染実態把握に資する研究
3-11	嘉糠洋陸	帯広畜産大学原虫病研究センター	教授	遺伝子増幅RPA法に基づいた媒介蚊における迅速簡便病原体検出法の開発
3-12	莉和宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	国内で発生のないベクター媒介性感染症の疫学診断法等の研究
3-13	清水博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討
3-14	鈴木哲朗	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	中空粒子を用いたウイルス性肝炎の新しい検査・予防法の開発
3-15	長谷川秀樹	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	経鼻粘膜投与型インフルエンザワクチンの臨床応用に関する研究

平成22年度新規採択課題(1年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
1-1	H22-新興一般-001	信澤枝里	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性等の解析に関する研究
1-2	H22-新興一般-002	小林信之	国立国際医療研究センター病院呼吸器科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究
1-3	H22-新興一般-003	切替照雄	(独)国立国際医療研究センター研究所感染症制御研究部	部長	新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究
1-4	H22-新興一般-004	石井健	(独)医薬基盤研究所創薬基盤研究部アジュバント開発プロジェクト	プロジェクトリーダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向上のための理論基盤構築
1-5	H22-新興一般-005	小田切孝人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	地方自治体との連携による新型インフルエンザおよび高病原性インフルエンザ変異株、薬剤耐性株等の早期検出、検査診断系の改良および流行把握に関する研究
1-6	H22-新興一般-006	森川茂	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	現在、国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の診断等の対応方法に関する研究
1-7	H22-新興一般-007	牧野正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	結核等抗酸菌感染症における生体防御及び抗菌制御を介した治療予防法の開発戦略
1-8	H22-新興一般-008	河野茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	教授	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究
1-9	H22-新興一般-009	苅和宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	海外からの侵入が危惧される野生鳥獣媒介性感染症の疫学、診断・予防法等に関する研究
1-10	H22-新興一般-010	山田章雄	国立感染症研究所獣医科学部	部長	ワンヘルズ理念に基づく動物由来感染症制御に関する研究
1-11	H22-新興一般-011	木村博一	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・病態解明及び制御に関する研究
1-12	H22-新興一般-012	竹田誠	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	早期麻疹排除及び排除状態の維持に関する研究
1-13	H22-新興一般-013	生方公子	北里大学大学院感染制御科学府&北里生命科学研究科病原微生物分子疫学研究室	教授	重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対するサーベイランスの構築と病因解析、その診断・治療に関する研究
1-14	H22-新興一般-014	河内正治	(独)国立国際医療研究センター手術部	部長	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究
1-15	H22-新興一般-015	清水博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	エンテロウイルス感染症制御のための診断・予防治療に関する国際連携研究
1-16	H22-新興一般-016	丸井英二	順天堂大学医学部	教授	情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究

1-17	H22-新興-一般-017	鈴木哲朗	浜松医科大学医学部医学科 感染症学講座	教授	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究
1-18	H22-新興-若手-019	黒田誠	国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター	センター長	抗菌剤治療により寛解する難治性炎症性腸疾患患者の網羅的細菌叢解析と病因・増悪因子細菌群の解明
1-19	H22-新興-若手-020	西村順裕	国立感染症研究所ウイルス第二部	主任研究官	コクサッキーA16型ウイルス特異的受容体の同定と機能解析

平成22年度継続課題(2年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
2-1	H21-新興-一般-001	小野寺昭一	東京慈恵会医科大学感染制御部	客員教授	性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究
2-1	H21-新興-一般-002	岡部信彦	国立感染症研究所感染症情報センター	センター長	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究
2-3	H21-新興-一般-003	寺嶋淳	国立感染症研究所細菌第一部	室長	食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究
2-4	H21-新興-一般-004	吉川泰弘	北里大学獣医学部獣医学科人獣共通感染症研究	教授	動物由来感染症のリスク分析手法等に基づくリスク管理のあり方に関する研究
2-5	H21-新興-一般-005	小林睦生	国立感染症研究所昆虫医科学部	部長	節足動物が媒介する感染症への効果的な対策に関する総合的な研究
2-6	H21-新興-一般-006	岸本壽男	岡山県環境保健センター	所長	リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症の総合的対策に関する研究
2-7	H21-新興-一般-007	向井徹	国立感染症研究所ハンセン病研究センター感染制御部	室長	ハンセン病の再発・再燃、難治症例に対する予防・診断・治療とハンセン病の啓発に関する研究
2-8	H21-新興-一般-008	荒川宜親	国立感染症研究所細菌第二部	部長	新型薬剤耐性菌等に関する研究
2-9	H21-新興-一般-009	西條政幸	国立感染症研究所ウイルス第一部	部長	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌やウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究
2-10	H21-新興-一般-010	森島恒雄	国立大学法人岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法、予防法の確立に関する研究
2-11	H21-新興-一般-011	加藤達夫	(独)国立成育医療研究センター	理事長・総長	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究
2-12	H21-新興-一般-012	谷口清州	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	国際的な感染症情報の収集、分析、提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究
2-13	H21-新興-一般-013	篠原克明	国立感染症研究所バイオセーフティ管理室	主任研究官	病原体等の登録・保管・輸送・廃棄に関する一括管理システムの開発と検証
2-14	H21-新興-一般-016	加藤誠也	(公財)結核予防会結核研究所	副所長	結核対策の評価と新たな診断・治療技術の開発・実用化に関する研究
2-15	H21-新興-若手-014	大屋賢司	国立大学法人岐阜大学応用生物科学部	准教授	動物由来クラミジアの自然界における存在様式の解明-比較ゲノム解析及び種特異的診断法の開発と実態調査

平成22年度終了課題(3年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
3-1	H20-新興-一般-001	工藤宏一郎	(独)国立国際医療研究センター国際疾病センター	センター長	我が国における一類感染症の患者発生時の臨床的対応に関する研究
3-2	H20-新興-一般-002	廣田良夫	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学	教授	インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究
3-3	H20-新興-一般-003	高崎智彦	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究
3-4	H20-新興-一般-004	山口一成	国立感染症研究所血液・安全性研究部	客員研究員	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策
3-5	H20-新興-一般-005	田代真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	新型インフルエンザの発生予測、早期検知、リスク評価および大流行に対する事前準備と緊急対応に関する研究
3-6	H20-新興-一般-006	佐多徹太郎	国立感染症研究所感染病理部	部長	テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究
3-7	H20-新興-一般-007	押谷仁	東北大学大学院医学系研究科	教授	新型インフルエンザ大流行時の公衆衛生対策に関する研究
3-8	H20-新興-一般-008	原口義座	国立病院機構災害医療センター外科・臨床研究部	外科医長・病態蘇生研究室長	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究
3-9	H20-新興-一般-009	杉山和良	国立感染症研究所バイオセーフティ管理室	室長	バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究
3-10	H20-新興-一般-010	小林和夫	国立感染症研究所免疫部	部長	持続性結核菌感染の病原性や発症に関わる分子機構の解明及び治療・予防の基礎研究
3-11	H20-新興-一般-011	石川信克	(公財)結核予防会結核研究所	所長	罹患構造の変化に対応した結核対策の構築に関する研究
3-12	H20-新興-一般-012	宮崎義継	国立感染症研究所生物活性物質部	部長	COPD等における難治性感染症の病態把握等に関する研究
3-13	H20-新興-一般-013	渡邊治雄	国立感染症研究所	所長	アジアに研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークに強化に関する研究
3-14	H20-新興-一般-014	岡田全司	独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	センター長	輸入感染症としての多剤耐性結核の対策・制御に関する研究
3-15	H20-新興-一般-015	倉根一郎	国立感染症研究所	副所長	地球温暖化に伴い変化する感染症に対する早期防御法確立に関する研究
3-16	H20-新興-一般-016	野崎智義	国立感染症研究所寄生動物部	部長	顧みられない病気に関する研究

3-17	H20-新興-一般-017	菅又昌実	NPOバイオメディカルサイエンス研究会国際協力部門・情報収集・広報部門/首都大学東京大学院人間健康科学研究科	理事/教授	感染症情報国民コールセンター設置と実施に関する研究
3-18	H20-新興-一般-018	多屋馨子	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究
3-19	H20-新興-若手-001	角田慎一	独立行政法人医薬基盤研究所創薬基盤研究部バイオ創薬プロジェクト	プロジェクトリーダー	有効かつ安全なインフルエンザ粘膜ワクチンの確立を目指した新規アジュバントシステムの開発
3-20	H22-新興-若手-018	岡智一郎	国立感染症研究所ウイルス第二部	主任研究官	ノロウイルス、サポウイルス感染症制御方法開発のためのウイルス増殖系の構築
3-21	H20-新興-指定-019	桐生康生H22.8 藤井紀男より 変更	国立感染症研究所	企画調整主幹	新興・再興感染症研究研究事業の企画及び評価に関する研究
3-22	H21-新興-指定-015	田代真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	細胞培養系を用いた新型インフルエンザワクチンの開発研究
3-23	H22-新興-指定-021	庵原俊昭	国立病院機構三重病院医局	院長	沈降インフルエンザワクチンH5N1新規株による免疫原性・交叉免疫性を含めた追加接種効果に関する研究